

---

# 電話帳

葉崎あすか

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

電話帳

### 【コード】

N7064K

### 【作者名】

葉崎あすか

### 【あらすじ】

前作「クリアファイル」と同一人物の馬鹿馬鹿しい話第2弾。

僕は電話帳を静かに閉じた。

それは、近くにいたアリさえも気づかないような静かさ。

閉じた後、わずかに覚えている番号を、頭の中で確かなものにするのも忘れなかった。

僕は電話帳を閉じたような静けさで立ち上がると、なにか重いものを探した。

大きければ大きいほどいい。石なんかがちょうどいいと思う。漬物石のような重さを僕は求めていた。

そのとき、レンガを見つけた。

花壇に使われているレンガだった。土に半分埋まっているそれを、僕は二つ手に取った。二刀流というわけだ。

重さも強度も、角があるのも良かった。

負けるわけにはいかないんだ。僕はレンガを強く握り締めた。

「どうしたんだ」僕は斉藤を電話で呼び出していた。携帯電話を持っていないので一度家に帰るのが面倒だったが、こういうときは電話で呼び出すものだ。

斉藤は黙っている僕に首を傾げた。そして、僕が持っている二つのレンガに目を丸くした。

「お、お前、いったい何を……」

「聞きたいのはこっちのほうだ」僕はレンガを強く握り締めながら、斉藤にゆっくりと近づいた。斉藤は目を丸くしたまま後ずさりする。

そのとき、斉藤の左足が電話帳にかすかに当たった。

「止まれ！」僕はそう叫ぶと、走り出した。こいつさえ、こいつさえいなければ！

斉藤は驚いて逃げ出した。その左足が、電話帳を道路の石を蹴ったように一度はねて地面を滑った。

もう我慢ならなかった。僕は電話帳の上にレンガを置いた。そして電話帳の角にレンガの角をキツチリと合わせた。

「……………」50メートルほど走った斉藤が戻ってきた。

「本当に何してんだよ」肩で息をしていた。普段走らないから辛そうだ。電話帳を蹴ったから罰を受けて当然だ。

「お前は、何にするんだよ」僕は斉藤の質問には答ええない。

「え？ 何のことだよ」

「後藤の誕生日プレゼントだよ！ 何にするんだ！」僕は理解力のない斉藤にさらに腹が立ってきた。

「……………」斉藤は目を丸くしたまま十秒ほど固まった。「あ、えっと、後藤が好きなアニメの絵を描いてやろうと思っただよ。俺美術部だし、金ないし」

「負けた……………」それを聞いた僕はがっくりと膝を地面につけた。完敗だ。完全に負ける。

「お前は何にするんだ？」

「これだよ」僕は、震える手で電話帳を指さした。慣れないレンガを強く握り締めたから、握力が尽きてしまったのだ。

「ああ、押し花同好会……………」と言った後、斉藤は笑い出した。そして携帯電話を取り出した。

そう、僕もプレゼント資金がない。そう言っても斉藤のように絵もうまくない。どうしたら普段お世話になってる後藤を喜ばせることができるのか。考えた末の案だったが、どう考えても斉藤に負ける気がしていた。そして、今、負けようとしている。

「すげえ」

これは、後日出来上がった僕の押し花を見た後藤と斉藤の第一声。五時間もデザインを練りに練った力作。呆だ。後藤はいつも本を読んでいるから使ってくれるだろう。

斉藤が描いたアニメの絵は、「ちょっと違うな」の一言で切り捨てられた。後藤が言うには、どんなに似せても元の絵にはかなわな

いらしい。それにルーズリーフに鉛筆書きだった。  
僕の勝ち。

(後書き)

お久しぶりです。葉崎です。

実は大学受験に大学生活、バイトでここ数年まったく小説を書いていませんでした。久しぶりに書いてみようと思ったのですが、小説の書き方を忘れてしまったのでこれは肩ならしだと思って下さい。

本当に下らないと思います。

こんな作品でも、感想を送って下さったらとてもうれしいです。

それでは。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7064k/>

---

電話帳

2010年11月22日21時41分発行